

氏名 片 野 隆 司

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 甲 第 191 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和41年 3 月31日

学 位 授 与 の 要 件 医学研究科内科系小児科学専攻
(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目 好虫球の顆粒形成と機能に関する形態学的研究

論 文 審 査 委 員 教授 妹尾左知丸 教授 浜 本 英 次 教授 谷 奥 喜 平

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

好中球顆粒形成のメカニズムと、顆粒の持つ機能を解明する目的で、マウス及び家兎の骨髓と分離した末梢血白血球を用いて、光学顕微鏡並びに電子顕微鏡的に研究を行った。

末梢白血球には墨粒を貪食させて、喰胞と顆粒との関係を、細胞化学的に電子顕微鏡的観察を行った。

マウス骨髓では、好中顆粒はゴルジ装置のラメラ様構造に電子密度の高い物質が蓄積し、それが先端で濃縮し、球形化して最後に離断して生成される一種の分泌顆粒的性格を有するものである事を観察した。又、末梢血白血球に於ては墨粒を貪食した喰胞と好中顆粒は融合する傾向をみせ、融合によって酸フォスファターゼ反応が陽性化する事を観察した。以上の結果から、好中顆粒はゴルジ装置に於て形成され、その内部に加水分解酵素を容れて細胞質内に散在し、異物の補食の際には喰胞と融合して内部の酵素を放出し、異物の消化にあたるものであると考える。

岡山医学会雑誌 第78巻1号(昭和41年1月31日付発行)に掲載予定

本論文の要旨は第27回日本血液学会総会(昭和40年3月)発表

論文要査の結果の要旨

片野隆司提出の「好中球顆粒の形成と機能に関する形態学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

即ち片野は上記論文の内容に就て家兎及びマウス顆粒白血球の顆粒の形成過程に就て詳細に電顕像を示し乍ら説明，更に食顆粒と好中顆粒が融合する過程を示して顆粒の機能が異物処理にある事を説明した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。